

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和５年度 学校評価重点計画

小松市立中海中学校
学校長 松本 香薫

目指す児童生徒の姿

- ・ 創意工夫し、よりよい生き方をめざす生徒（創造）
- ・ 自ら求め、自ら進んで学ぶ生徒（実践）
- ・ 困難を乗り越え、粘り強くやり抜く生徒（不屈）
- ・ 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒（信頼）

目標 意欲的に挑戦できる生徒の育成

（１）学校の課題

本校では、数年来、「自己肯定感の低い生徒が多いこと」が課題となっている。そのため、昨年度は「集団づくり」「教師の意図した場面設定」での取り組みを進めたところ、「自分にはよいところがある」というアンケート項目において、約８０％の生徒が肯定的な回答をし、良好な結果ではあったが、年度末目標指標の９０％には到達しなかった。また、「自分には難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している。」という項目においては、中間・年度末ともに、７０％台で、目標指標の数値には届かず、課題として残った。

（２）具体的な方策と検証

- ・ 「集団づくり」失敗しても温かく受容してくれる集団であれば、課題に向かって恐れず挑戦できる。お互いの個性や多様性を認め合い、安心して何事にも取り組める集団づくりが求められる。昨年に引き続き、各学級でつながりを意識できる活動や、学校行事での縦割り活動の中で温かい交流を経験させ、「この集団なら挑戦できる。」「挑戦してみたい。」という生徒の意欲の向上を図る。
- ・ 「生徒指導の３機能を意識した場面設定」生徒指導の３機能を意識して授業や行事を計画し、生徒が主体となって活躍できる場面を設定していく。教師全員で「しかけて→やりきらせて→ほめる」指導を徹底し、意欲的に挑戦し粘り強く取り組む生徒を育てる。

※検証は、学期末の生徒・教師アンケートにおいて調査する。